

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 5 年 2 月調査結果 - -

(平成 1 5 年 3 月 4 日)

調査期間：平成 1 5 年 2 月 1 9 日～ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 1 商工会議所が 2 6 0 4 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 6 製造業 6 3 7 卸売業 2 3 2
小売業 7 4 5 サービス業 6 0 4

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4、7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成15年2月調査結果のポイント】

景況は依然、低水準 漂う閉塞感

2月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（52.8）よりマイナス幅が2.1ポイント縮小して50.7となり、3カ月ぶりにマイナス幅が若干縮小した。昨年4月以降、低水準で一進一退を繰り返す不安定な動きをしてきたDI値は、12月、1月と2カ月連続でマイナス幅が拡大した後、再び若干縮小した。

業種別の業況DIを見ると、卸売を除く4業種でマイナス幅が縮小したが、全産業合計の業況DIの水準は5カ月連続でマイナス50台の低水準で推移しており、公共事業の縮小、イラク問題や、年度末にかけての金融危機への不安など、中小企業の足元では景気の先行きに対して悲観的な見方が広がり、閉塞感を訴える声が多く寄せられている。

【建設業】では、「補正予算の効果がいつ出てくるか期待」（一般工事）との声があるものの、「官民ともに仕事量少なく、従業員も過剰気味」（一般工事）「採算割れ受注も限界で、今後中規模の建設会社の間で合併の動きも」（一般工事）「公共工事も仕様が指定される中での価格競争で、利益が出ない」（土木工事）など、引き続き受注減少と採算悪化を訴える声が多く寄せられている。

【製造業】では、「鉄鋼、アジア向け輸出の好調により高操業」（耐火物）「中国のPHS市場拡大により、部品需要も急増の見込み」（電子部品）などの声の一方、「安価な輸入品の増加により、国内向けの生産・販売が低迷しており、輸出市場でも他国製品に追い上げられている」（金物類）「受注量を確保している企業と大幅減少している企業に二極分化している」（電子部品）といった声のほか、「用紙の値上げが浸透し、仕入価格が上昇」（印刷）「燃料価格が高騰」（建設用粘土製品）など、原材料の高騰の影響を訴える声が多く寄せられている。

【卸売業】では、「中国製品との競争激化により収益性悪化し、先行き見えず」（衣服・日用品）「生産者直売、市場外流通、市外市場からの流入など、流通の多様化で地元小規模小売店への売上激減」（農畜産水産物）「小口注文が多く、手間ばかりかかり売上は減少」（建築材料）と、厳しい状況を訴える声が多く、また、「石油・鉄鋼製品を中心に値上げの動き」（その他卸）と、仕入れコスト上昇を訴える声が多く寄せられている。

【小売業】では、「冬物一掃セールにより集客が高まり、売上増加」（商店街）「軽自動車、小型普通車の販売は好調」（自動車小売）といった声があるものの、「消費者の低価格志向により、依然、高級品の動きが鈍い」（百貨店）「セールを仕掛けても、効果が持続しない」（百貨店）「入店客数は横ばいだが、購買点数が減少しており、売上減少」（百貨店）など、引き続き単価下落、消費低迷などを訴える声が多い。

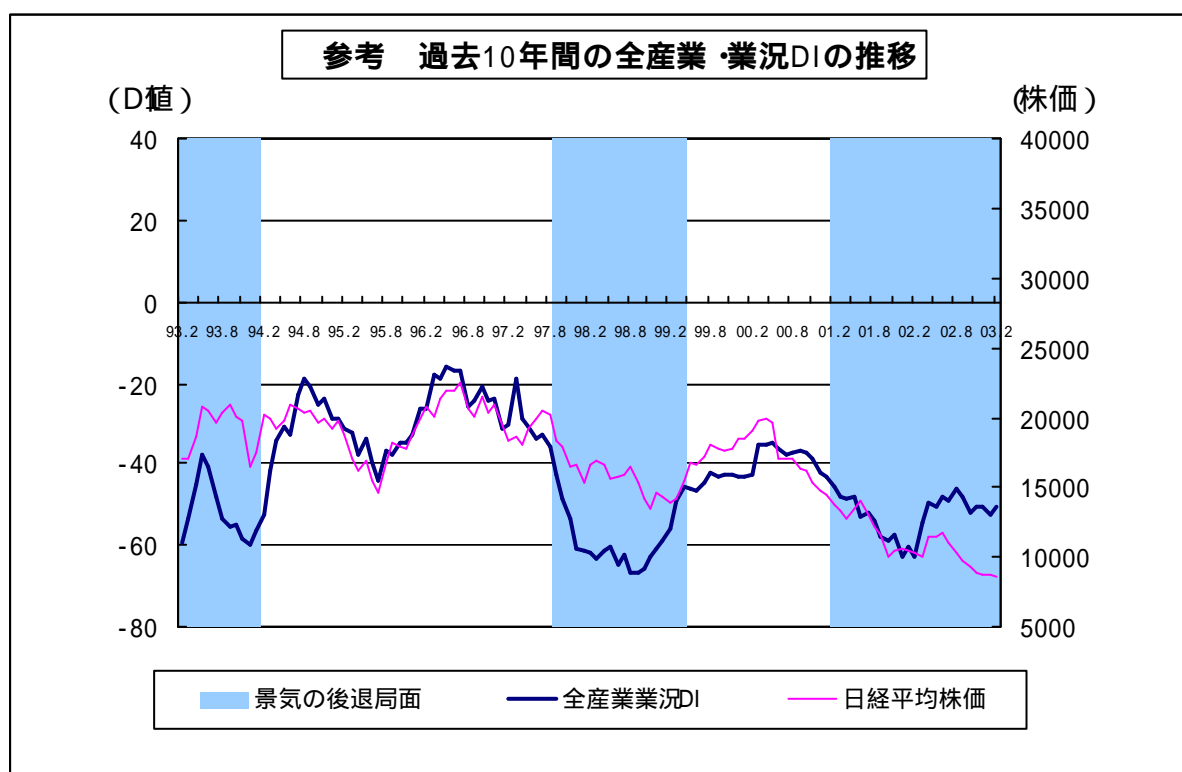
【サービス業】では、「決算の時期で仕事は増えている」（ソフトウェア）との声はあるが、「一般の飲食と比べ単価の大きい宴会の数が圧倒的に減少しており、売上減少し厳しい状況」（食堂、レストラン）といった、単価下落を訴える声が多い。また、「サービス商品しか出ないが、質で売っている店は単価が高くてもその商品が売れており、一人勝ちか負けるかという中間の無い状況」（すし店）とのコメントも寄せられている。

売上面では、前月水準より、D I 値のマイナス幅は全業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は前月水準よりマイナス幅が4.4ポイント縮小して43.7となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

採算面では、建設、卸売でマイナス幅が拡大したが、他の3業種で縮小したため、全産業合計の採算D I はマイナス幅が0.7ポイント縮小して46.9となり、業況および売上D I とともに、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(3月~5月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が42.4と、昨年同時期の先行き見通し(49.4)と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の縮小、イラク問題や年度末にかけての金融危機への不安、仕入れコストの上昇などに関するコメントが目立っている。



【業況についての判断】

2月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（52.8）よりマイナス幅が2.1ポイント縮小して50.7となり、3カ月ぶりにマイナス幅が若干縮小した。昨年4月以降、低水準で一進一退を繰り返す不安定な動きをしてきたDI値は、12月、1月と2カ月連続でマイナス幅が拡大した後、再び若干縮小した。

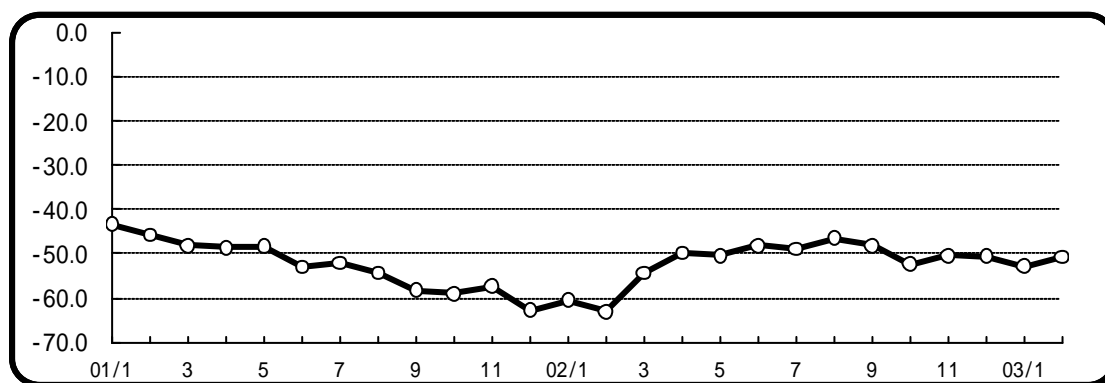
向こう3カ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が42.4と、昨年同時期の先行き見通し（49.4）と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

業況DI（前年同月比）の推移

	14年 9月	10月	11月	12月	15年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	48.1	52.3	50.4	50.5	52.8	50.7	42.4 (49.4)
建設	56.8	63.7	62.9	63.0	65.5	64.7	62.6 (63.1)
製造	49.2	53.7	46.7	47.7	49.1	46.7	40.7 (49.9)
卸売	50.6	57.1	44.9	43.1	46.2	48.2	35.9 (52.7)
小売	42.3	45.8	46.0	48.6	51.1	48.0	37.0 (45.2)
サービス	47.2	49.4	53.7	50.4	53.4	50.2	40.4 (43.2)

先行き見通しは当月に比へた向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年2月の先行き見通しDIを以下同じ

業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

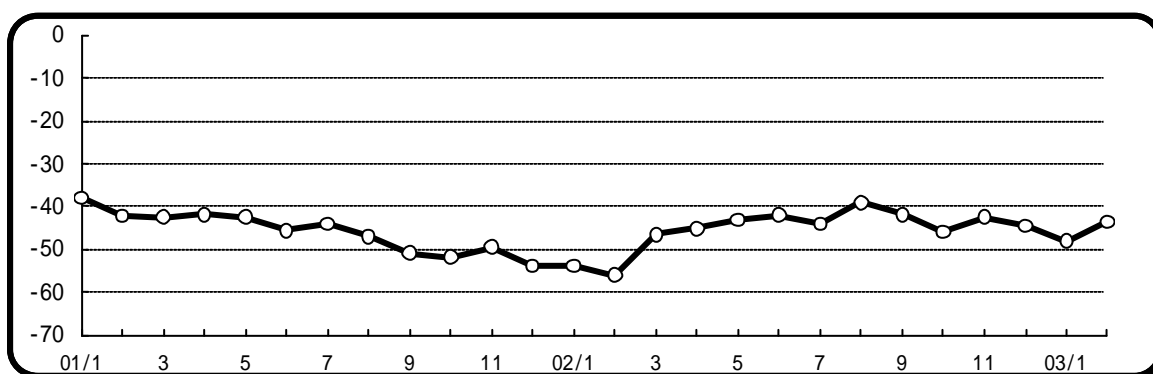
売上面では、前月水準より、D I 値のマイナス幅は全業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は前月水準よりマイナス幅が4.4ポイント縮小して43.7となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が35.6と、昨年同時期の先行き見通し(41.3)に比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	14年 9月	10月	11月	12月	1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	41.9	46.0	42.5	44.5	48.1	43.7	35.6 (41.3)
建設	47.0	56.9	56.3	53.9	64.4	57.1	51.6 (57.7)
製造	42.8	44.5	41.2	39.7	39.7	36.8	34.9 (42.8)
卸売	48.1	55.8	37.1	38.3	42.7	41.8	27.6 (40.0)
小売	40.2	39.8	35.8	45.9	45.7	40.8	31.7 (36.7)
サービス	37.3	44.4	44.7	44.2	51.8	46.8	33.7 (34.0)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

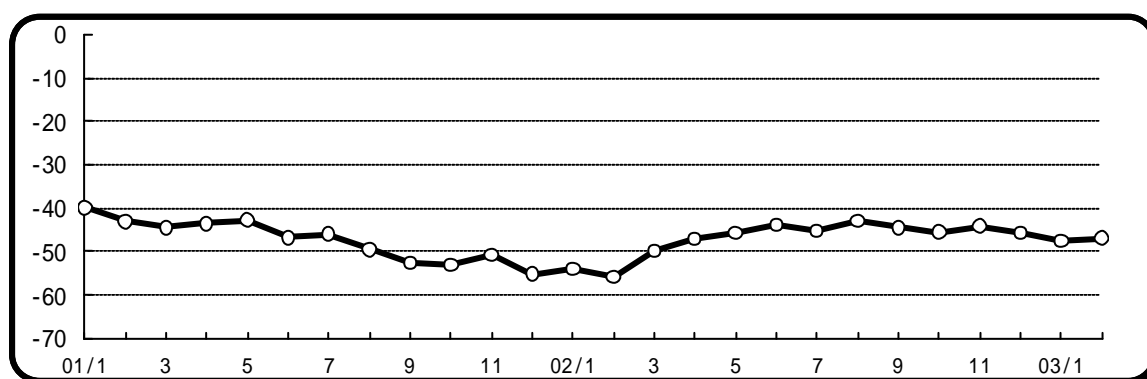
採算面では、建設、卸売でマイナス幅が拡大したが、他の3業種で縮小したため、全産業合計の採算D Iはマイナス幅が0.7ポイント縮小して46.9と、業況および売上D Iとともに、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が37.0で、昨年同時期の先行き見通し(42.8)と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

採算D I (前年同月比) の推移

	14年 9月	10月	11月	12月	15年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	44.5	45.6	44.2	45.7	47.6	46.9	37.0 (42.8)
建設	56.8	60.5	61.3	61.9	61.6	63.4	57.9 (58.4)
製造	45.9	51.4	46.3	48.9	47.6	46.3	41.6 (45.3)
卸売	48.1	50.3	37.1	35.3	34.5	40.0	24.7 (44.7)
小売	35.5	29.5	33.9	37.1	40.7	39.7	29.2 (36.4)
サービス	44.3	47.6	45.7	46.2	52.0	48.8	32.5 (36.4)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	14年 9月	10月	11月	12月	15年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	34.7	35.9	35.7	35.9	37.1	38.0	33.0 (37.3)
建設	48.5	45.7	49.2	49.6	50.8	54.0	49.6 (49.6)
製造	38.2	42.3	36.9	38.4	39.8	39.6	33.7 (43.1)
卸売	26.7	29.9	31.9	27.6	28.9	31.9	29.3 (33.6)
小売	28.9	26.8	27.5	27.9	28.9	33.1	27.8 (30.3)
サービス	30.3	33.7	35.1	35.3	36.7	32.0	29.2 (31.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造、サービスを除く3業種で悪化超感が強まったことから、全産業合計のD Iも3カ月連続で悪化超感が若干強まる。

【先行き見通しD I】横ばいの建設を除く4業種で昨年同時期に比べ悪化超感が弱まり、全産業合計でも悪化超感弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	14年 9月	10月	11月	12月	15年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	0.7	1.7	2.6	3.1	2.3	2.9	4.9 (1.9)
建設	3.4	6.4	6.0	3.2	1.8	0.7	3.0 (0.7)
製造	8.6	12.3	12.2	15.7	14.1	16.2	15.6 (6.9)
卸売	5.7	9.8	2.4	2.4	2.9	0.0	3.0 (0.0)
小売	9.1	1.8	3.0	5.1	4.6	7.4	4.9 (3.3)
サービス	3.3	4.8	7.0	6.0	3.0	5.0	7.6 (4.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】小売を除く4業種で下落超感が弱まり、全産業合計でも下落超感が弱まる。全産業合計で5カ月連続の上昇超過となった。

【先行き見通しD I】小売を除く4業種で、昨年同時期に比べ下落超感弱まり、全産業合計でも下落超感弱まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	14年	10月	11月	12月	15年	2月	先行き見通し
	9月				1月		3~5月
全産業	14.2	16.4	15.8	15.5	15.3	16.0	16.7 (18.5)
建設	33.1	34.2	35.7	33.0	31.9	35.3	37.6 (33.2)
製造	20.5	25.6	21.6	20.9	20.9	20.7	19.1 (25.5)
卸売	16.3	11.0	15.0	16.2	14.0	16.5	12.8 (17.7)
小売	3.8	7.0	4.2	4.2	5.8	6.7	8.3 (11.2)
サービス	6.7	8.5	10.1	11.4	10.0	9.5	11.7 (9.6)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】製造、サービスを除く 3 業種で過剰超感が強まり、全産業合計でも 4 カ月ぶりに過剰超感が若干強まる。

【先行き見通し D I】建設、サービスを除く 3 業種で昨年同時期に比べ過剰超感が弱まり、全産業合計でも過剰超感が若干弱まる見通し。

【平成15年2月の景気キーワード】

先行き悲観

業種を問わず、景気の先行きに対して悲観的な見方が広がっている。建設からは、「新年度予算も縮小で明るい材料は無い」(酒田・一般工事)「公共工事の減少で、4月以降売上減少見込みの事業所多数」(江津・一般工事)製造からは、「自動車関連に支えられ、生産は緩やかに改善しているが、緊迫する国際情勢や国内一部産業の生産調整など懸念材料が多い」(金沢・金属製品)「石油製品の値上がりが見込まれ、燃料費増加が経営不振を一層深刻にする」(土岐・陶磁器、同関連)「イラク問題によっては、ポリ製品の単価への影響も」(丸亀・生活雑貨製品)など、公共工事の縮小や、イラク問題などによる悪影響の見込みを訴える声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「卸売会社が弱気になっているため、春物商品の納期が遅れている」(福山・商店街)「春以降の状況がつかめず、予約状況は厳しい」(小松・旅館)といったコメントが寄せられたほか、「現在のデフレを常態と考え債務削減に努力しているが、雇用調整なども限界にきている」(松阪・製材木製品製造)「業況は大変悪い中での底地安定といったところ」(小野・その他卸売)「営業側も良くない状況に慣れてしまっていることに危機感を感じる」(柏・各種商品卸売)「長引く不況で積極的な販売促進などに取り組む意欲が減退している」(美濃加茂・商店街)といった、現状と先行きへの閉塞感を訴える声が寄せられている。

仕入れコスト上昇

イラク問題等により、原材料の高騰による、仕入れコストの上昇を訴える声が寄せられており、「石油が値上がりしたため、材料単価が上昇」(松任・管工事)「販売価格低下、原材料値上げの影響大きく、収益ますます悪化」(岐阜・その他プラスチック製造)「大手メーカー合併による生産調整により、鋼材の約10%値上げが浸透し、価格転嫁できず苦しい」(西宮・建設建築用金属)など、経営への深刻な影響を訴える声が寄せられており、食料品でも「漁獲量の減少が続き、仕入れ単価上昇、採算悪化」(境港・水産食料品製造)「先月に引き続き野菜の相場が依然高い」(石岡・食料、飲料卸売)との声が寄せられているほか、ユーロ高により「輸入ブランドにおいて値上げの動き」(松山・百貨店)といった声も寄せられている。

資金繰り不安

倒産の増加や、年度末の金融危機発生懸念などから、資金繰りへの不安感を訴える声が寄せられており、「年度末を控え、貸し渋りや貸し剥がしによる倒産が噂されている」(古河・建築工事)「売上不振と、貸し渋り、相次ぐ経営破綻による信用取引の縮小に加え、3月にかけて金融環境への懸念が大きい」(大川・家具製造)「資金繰りは更に悪化の見込みで、政府の金融セーフティーネット対策も小企業の場合、保証料の負担が大きい」(盛岡・各種商品卸売)「借入の際、状況資料の提出、約定変更などを求められ、厳しい方向にある」(松山・旅館)などの声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
14年12月	先行き不安感	歳末商戦低調	倒産・廃業
15年 1月	先行き不安感	消費低迷	倒産・廃業
2月	先行き悲観	仕入れコスト上昇	資金繰り不安

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは3カ月ぶり、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月ぶりに拡大した。「補正予算の効果がいつ出てくるか期待」(一般工事)との声があるものの、「官民ともに仕事量少なく、従業員も過剰気味」(一般工事)「採算割れ受注も限界で、今後中規模の建設会社の間で合併の動きも」(一般工事)「公共工事も、仕様が指定される中での価格競争で利益が出ない」(土木工事)など、引き続き受注減少と採算悪化を訴える声が多く寄せられている。
製 造	業況D Iは3カ月ぶり、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月連続で縮小した。「鉄鋼、アジア向け輸出の好調により高操業」(耐火物)「中国のPHS市場拡大により、部品需要も急増の見込み」(電子部品)などの声の一方、「安価な輸入品の増加により、国内向けの生産・販売が低迷しており、輸出市場でも他国製品に追い上げられている」(金物類)「受注量を確保している企業と大幅減少している企業に二極分化している」(電子部品)といった声のほか、「用紙の値上げが浸透し、仕入価格が上昇」(印刷)「燃料価格が高騰」(建設用粘土製品)など、原材料の高騰の影響を訴える声が多く寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月連続、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上D Iは3カ月ぶりに縮小した。「中国製品との競争激化により収益性悪化し、先行き見えず」(衣服・日用品)「生産者直売、市場外流通、市外市場からの流入など、流通の多様化により厳しい状況」(農畜産水産物)「小口注文が多く、手間ばかりかかり売上は減少」(建築材料)と、厳しい状況を訴える声が多く、また、「石油・鉄鋼製品を中心に値上げの動き」(その他卸)と、仕入れコスト上昇を訴える声が多く寄せられている。
小 売	業況D Iは5カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月連続で縮小した。「冬物一掃セールにより集客が高まり、売上増加」(商店街)「軽自動車、小型普通車の販売は好調」(自動車小売)といった声があるものの、「消費者の低価格志向により、依然、高級品の動きが鈍い」(百貨店)「セールを仕掛けても、効果が持続しない」(百貨店)「入店客数は横ばいだが、購買点数が減少しており、売上減少」(百貨店)など、引き続き単価の下落、消費の低迷などを訴える声が多い。
サービス	業況、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「決算の時期で仕事は増えている」(ソフトウェア)との声はあるが、「一般の飲食と比べ単価の大きい宴会の数が圧倒的に減少しており、売上減少し厳しい状況」(食堂、レストラン)と、単価下落を訴える声が多い。また、「サービス商品しか出ないが、質で売っている店は単価が高くてもその商品が売れており、一人勝ちか負けるかという中間の無い状況」(すし店)とのコメントも寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）をみると、東北、中国、九州を除く6ブロックでマイナス幅が縮小し、全ブロック合計でも3カ月ぶりに縮小した。

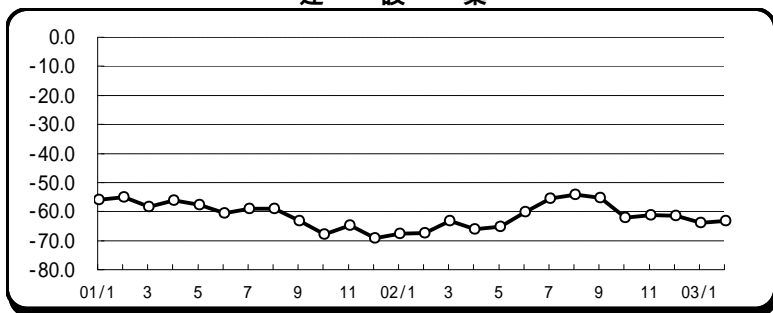
ブロック別の向こう3カ月（3月～5月）の業況の先行き見通しは、北海道、関東を除く7ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べマイナス幅が縮小し、全ブロック合計でも縮小しているが、依然マイナス幅は大きく、低い水準にある。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	14年 9月	10月	11月	12月	15年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全 国	48.1	52.3	50.4	50.5	52.8	50.7	42.4 (49.4)
北海道	40.3	41.3	50.8	51.1	55.7	44.4	43.5 (40.0)
東 北	51.5	53.2	54.0	46.0	52.6	55.2	51.5 (64.1)
北陸信越	44.3	47.0	45.4	46.5	51.3	51.1	38.9 (50.3)
関 東	46.1	54.7	51.1	52.9	54.5	50.0	41.3 (41.0)
東 海	49.7	53.0	51.2	49.7	45.5	41.4	39.7 (52.5)
近 畿	52.6	58.0	53.3	52.2	54.3	53.7	43.2 (59.8)
中 国	48.1	49.3	50.6	45.3	50.3	52.7	44.0 (48.6)
四 国	55.4	60.6	55.0	62.6	65.5	58.2	40.9 (47.4)
九 州	45.7	46.5	41.5	47.5	48.1	50.3	40.7 (45.6)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

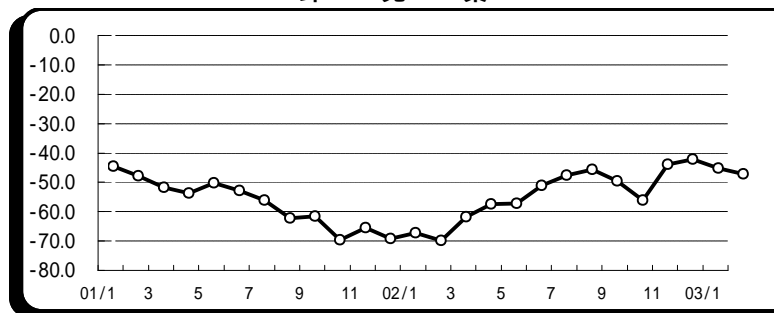
建設業



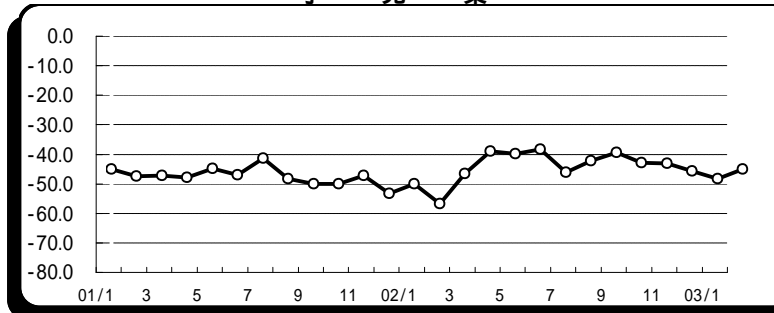
製造業



卸売業



小売業



サービス業

